2020年1月26日

福音書からのメッセージ

二人はすぐに網を捨てて従った。
（マタイによる福音書4章20節）

イエス様は伝道を開始する際に、ガリラヤのカファルナウムに住まわれました。聖書の文面を読むと、それだけのことです。けれどもこれがどれほどのことか、当時の人たちにとってはどれほどインパクトのある出来事だったのか、そのあたりのことをきちんと押さえていく必要があるように思います。

当時のユダヤの中心は、宗教的にも、そして経済的にもエルサレムでした。ユダヤの人たちは大きなお祭りのときにはエルサレム神殿に参拝していましたし、権力者や宗教者もエルサレムを中心に集まっていました。逆にガリラヤのカファルナウムは港町でした。重要な貿易ルートなのでお金持ちもいたでしょうが、アッシリアなど諸外国から支配されたこともあり、この当時もローマ兵の拠点となっていたようです。そのためユダヤ人は貧しい生活を強いられていました。

もしイエス様が手っ取り早く世界を神の国にしたいのであれば、中心地にいきなり行き、活動を開始した方がよかったでしょう。たとえば今から日本を変えたいと思った時に、わたしたちだったらどこに拠点を置くでしょうか。東京でしょうか。それとも地方の片田舎でしょうか。

しかしイエス様はガリラヤを選ばれました。どうしてガリラヤだったのでしょうか。その理由の一つは、イザヤの書にそう記されていたからです。そこにはこのように書かれています。「ゼブルンの地とナフタリの地、湖沿いの道、ヨルダン川のかなたの地、異邦人のガリラヤ」と。この言葉だけでも、このガリラヤという地が人々から低く見られているような印象、蔑まれているようなイメージを受けます。しかしイザヤ書は続けて

このようにも書いています。「暗闇に住む民は大きな光を見、死の陰の地に住む者に光が射し込んだ」。

神さまのみ心は、暗闇に住む民に、そして死の陰の地に住む者に、光が与えられるということです。この「暗闇に光」ということを象徴しているのが、ガリラヤのカファルナウムであったということです。

わたしたちにとって、このことは素晴らしい福音だと思います。神さまが選ばれた地はエルサレムではなくガリラヤでした。そして真っ先に手を差し伸べようとされたのは、光の中で輝いている人ではなく、暗闇の中で救いの手を待ちわびている、そんな人たちでした。

山でたとえるなら、頂上付近にいる人に向かって「さあ、もうすぐゴールだ！」と言っているのではありません。山のふもとで、登る気力さえ失せ、足元は泥だらけ、道も分からない、そんな状況の中にいる人の元に下りていき、「さあ、一緒に歩こう！」、それがイエス様なのです。

桃山基督教会

〒612-8039
京都市伏見区御香宮門前町184
TEL/Fax　075-611-2790
メール momoyama.kyoto@nskk.org
＜教会ホームページ＞
http://momoyama.hannnari.com/